

神奈川の自然シリーズ 19 入生田のカエル

あらいかずまさ
新井一政 (学芸員)

神奈川県立博物館が人文系と自然系の2館に分かれ、自然誌部門が横浜・関内を離れ、ここ、小田原市入生田に移転してきてから11年が経過しました。四周をビルに囲まれ、通称・コンテナ街道からのトレーラーの騒音しか聞こえなかった環境から、早川の流に面し、初夏になるとカジカガエルの鳴き声が事務室にまで聞こえる現在の地に移転したのをきっかけに、博物館周辺で見かける「身近な生きもの」を観察してきました。今回は、カエルについてご紹介しましょう。

神奈川県内からは、在来種として4科12種のカエルが記録されています。11年間の筆者の調査では、入生田地区には4科6種のカエルが生息することが確認できました。この種類数が多いのか少ないのかの議論はまたの機会にゆずるとして、それぞれの種についての入生田における現状を紹介しましょう。

アズマヒキガエル (ヒキガエル科) 入生田での個体数は少ないものと思われまます。国道1号線で1個体、林道・早川湯河原線に掛かる太閤橋の右岸脇で1個体、共に車に轢かれた成体の死体で本種の生息を確認することができました。

夜行性のカエルは、成体の姿を目視するより鳴き声や幼生(オタマジャクシ)の存在でその生息を確認する手法が効率的です。ヒキガエルは、アマガエルのように大きな声では鳴きませんので、幼生を探すことにしました。入生田地区には本種の繁殖期にも水が涸れず、産卵に適した流れの無い止水域、つまり「池」と呼ばれるような水環境は3箇所ありましたが、それらはいずれもコンクリート製で鯉や金魚の鑑賞池です。1995年から、毎年見回りをしてきましたがなかなか産卵が見られません。2002年3月、ようやく老人福祉施設の池で卵が発見され、5月には幼生の上陸を確認できました。しかし、ヒキガエルの産卵はこの年だけで、以後は確認されていません。

ニホンアマガエル (アマガエル科) その名が示すとおり、雨が近づくと小さな

体のわりには大きな声で鳴き、思いがけない場所で本種の存在を知って驚かされることがあります。水利の良くない山の斜面に広がるミカン畑には、雨水を利用するために設置されたコンクリート製の水槽の他に、風呂桶やドラム缶、漬物樽、ベビーバス等が置かれ、雨水が溜められています。指先に吸盤があり、垂直な壁面を登ることができるアマガエルは、他種のカエルには利用できないこの“水溜り”に産卵し、子孫を残

しています。入生田のアマガエルの何パーセントかは、ベビーバス生まれが占めているのです。

タゴガエル (アカガエル科) 入生田地区で個体数が最も多いと思われるのが本種です。長興山の南面を流れる宮沢川と吾性沢川周辺に多く見られ、沢沿いの林を歩いていると下草の陰からよく飛び出てきます。3月中旬から4月下旬頃の繁殖期には、沢の中(の石の下)のあちこちから雄が雌を呼ぶグー、グーという鳴き声が水音に負けずに聞こえてきます。そして、沢沿いの伏流水や水中の石や落ち葉の下などに、白っぽい卵を産みます。

ヤマアカガエル (アカガエル科) タゴガエルに比べると生息数は少なく、見かける機会もめったにありません。その理由は、両種の繁殖環境の違いにあると思われます。止水域を産卵場所とするヤマアカガエルには、現在の入生田地区は決して快適な住環境とはいえないのです。アマガエルのように指に吸盤を持たない彼らは、ベビーバスの“水溜り”が利用できません。耕作が放棄された畑に残された灌漑用水槽2箇所、産卵が確認できただけでした。

博物館正面玄関の前庭に、「水」をシンボリックに表現した人工の「滝」が造られています。開館時間中は、ポンプアップされた水を勢いよく落させていたのですが、2003年秋から運転を中止しています。水が落ちなくなった滝つぼは、浅い池となり、翌04年の春



写真 博物館地下駐車場の壁の継ぎ目で越冬中のニホンアマガエル。2006年1月31日撮影。

には待っていましたとばかりにヤマアカガエルが産卵しました。昨年も“生まれも育ちも博物館”の本種が200個体以上、変態を終えて無事に上陸してきました。そして、今(06)年も2月3日に第1回目の産卵がありました。

ツチガエル (アカガエル科) 早川の岸辺で見られますが、個体数は決して多くありません。背面に多数のいぼ状突起がある暗褐色の小型のカエルで、イボガエルとも呼ばれ、水辺から離れることはありません。日本産のカエルでは珍しく幼生のまま越冬し、翌年の初夏に変態し上陸します。ツチガエルは、田んぼの畦や用水路にごく普通に生息しているカエルですので、入生田でもたくさん見られたと思われます。しかし、全国的な田んぼの減少と水路や河川のコンクリート護岸化が進むと共に急激に姿を消しつつあります。ちなみに、2003年には入生田から最後の田んぼが姿を消しました。

カジカガエル (アオガエル科) 入生田地区は、早川水系における本種の分布の最下流域に当たります。太閤橋上流では、4月上旬から鳴きはじめ、4月末になると日中でも鳴き声が聞こえるようになります。日中は石と石の隙間などで鳴いているため、姿を見かけることは稀ですが、夜になると、雄は水面から出た石の上を縄張りにして盛んに鳴き、雌を呼びます。8月初旬には繁殖期も終わり、河原からカジカガエルの声が消えます。